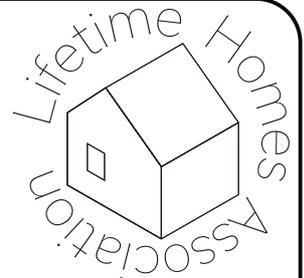


第8回 社会資本としての住環境研究会 住み続けられる地域をつくる／考える 3

障害者の雇用から考える

「まちに住む」ということ—当事者参加の実践



■日時 **2021年6月19日(土) 14:00~16:00** (13:50入室開始)

■会場 **Zoomによるオンラインセミナー**
お申込後、ミーティングIDをメールでお送りいたします
参加費無料

■レクチャー

講師：**山田昭義さん**(社会福祉法人AJU自立の家顧問)

聞き手：**原利明**(ライフタイム・ホームズ協会理事)

コメンテーター：**ヒラヤマアキヒトさん**(福祉のまちづくり学会東海北陸支部) ほか

主催：一般社団法人 LIFETIME HOMES ASSOCIATION

共催：福祉のまちづくり学会東海北陸支部

福祉のまちづくり学会障害のある人たちの就労に関する特別研究委員会

■趣旨

これまで研究会では、社会的共通資本としての「制度資本」である地域包括ケアシステムに必要な「社会的インフラストラクチャー」としての住宅のあり方として、ライフタイム・ホームズという設計基準を紹介してきました。さらに地域で暮らすためのアクセシビリティを整備する、ライフタイム・ネイバーフッズについて考えてきました。

年齢／障害などにかかわらず、だれもが今いる地域コミュニティの中で暮らし続けるためには、その地域のサービスを充分利用でき、さらにはその地域の人と交流し、その地域で活動できることが重要であり、そのためにその人の住まい方にあった地域の居住環境が整備されていることが欠かせません。生活が地域とつながり続けるためには、住宅や建築、地域のデザイン、そして制度システムや地域ネットワークには何が必要なのでしょう。

だれもがその能力に応じて社会・経済活動へ参加し、必要に応じて社会環境の整備を求めることができる。障害者の就労はそのための一つの核になります。障害者も地域で働き、生活することが、そのコミュニティの様々な変化にもつながっていきます。

今回は、障害者の雇用を作り、まちづくりに様々な提言を行うなど、いろいろなかたちで地域参加を実践してきた愛知の当事者団体AJU自立の家の顧問・山田昭義さんに、これまで関わられてきた当事者参加についてお話を伺います。

■プログラム

14:00～ 開催挨拶

14:05～ レクチャー

「障害当事者が住むことによってまちがどのように変わっていたのか」 山田昭義さん

14:40～ ディスカッション・質疑応答 聞き手：原利明

16:00 閉会

■申込み (締め切り 6月14日(月))

- ・参加費 無料
- ・定員:50名
- ・情報保障:文字通訳による字幕表示
- ・参加お申込みを以下のフォームよりお願いします

<https://basstronauts.sakura.ne.jp/ssl/lifetimehomes/register.html>

- ・E-mail でのお申込:件名「第8回 社会資本としての住環境研究会」とし、お名前・ご所属・ご連絡先メールアドレス・情報保障などのご希望を明記の上、以下お問い合わせ先アドレスまでお送りください。

■お問合せ:contact@lifetimehomes.jp